

ごあいさつ

NPO法人ボランタリーネイバーズ理事長

大西光夫

本日は、お休み日にもかかわらず、こんなにたくさんのご参加を賜りありがとうございます。

主催者でありますあいちモリコロ基金サポート組織のNPO法人ボランタリーネイバーズ理事長の大西でございます。諸先輩の皆様を前にまことに僭越ですが、主催者を代表しまして一言御礼のごあいさつを申し上げます。

遠方より基調講演に来ていただきました大阪コミュニティ財団の勝山英一郎様はじめ、パネリストやコーディネーターのみなさま、また、本シンポジウムを共催頂きました名古屋都市センター様、愛知県様をはじめご後援を頂きました皆様、ご協力いただきました皆様にまずもって御礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、ご存じのように、2005年の愛知万博の剰余金13億円を原資に2007年に設立されましたあいちモリコロ基金は、あと2年で終了します。

そこで、昨年、あいちモリコロ基金運営委員会におきまして、これまでの助成事業の成果の調査が行われました。一つは助成した事業は現在どのようになっているか、続いているのかです、8割から9割が続いていることがわかりました、2点目は助成を受けた団体がどのように変化したのかで、助成事業を契機に大きく成長した事例がたくさん見られました、3点目が助成した事業によって地域や社会がどのように変化したのかです。取り組みが行政の制度や施策に採り入れられたりして様々に地域や社会に成果を広げていることがわかりました。

この調査結果もとに、9月27日にウイルあいちにおきまして大村秀章愛知県知事を迎えて、モリコロ基金を検証するフォーラムが開催されました。250名の方にお集まりいただき、モリコロ基金の大きな成果を確認しこのまま立ち消えないようにしたいとの議論が行われました。詳しくはパネル討論のなかで

もご議論いただけるかと思えます。

そして、このフォーラムを機に、NPO団体の代表6名が呼びかけ人となって、モリコロ基金を継承発展させる新しい基金を作ることへの賛同署名が開始されました。現在、2340件、うち、団体署名が293件、個人署名が1968件、記載がなく確認中が79件です。NPO団体だけでなく、行政セクターの方、企業セクターの方、また学識者のみなさんにもたくさん署名をしていただいております。この署名は、今後も新しい基金の設立まで続けられます。賛同署名拡大にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本日のシンポジウムは、モリコロ基金の生みの親となりました愛知万博の成果や意義なども今一度振り返りながら、これからの時代にふさわしい新しい基金像を考えよう、というものであります。

東海東南海地震の発生が指摘されています、リニア開通による地域社会の変貌もあります、高齢化や少子化、地域コミュニティの減退など社会的な課題もあります。また、一方で豊かな濃尾平野によって培われ蓄積された大きな地域資源があります。

こうしたこの地域の現状を踏まえて、本日は、1991年に関西で設立されました大阪コミュニティ財団の勝山英一郎事務局長様から基調講演を頂き、その後、勝山様を交えて4名のパネリストの皆様で中部圏におけるこれからの時代のあたらしい基金像をご議論いただきます。司会は、名古屋都市センターの羽根田英樹様をお願いしております。会場の皆様もこの議論に積極的に参加いただけると幸いです。

最後になりますが、この新しい基金づくりの取り組みは、まだまだこれから、夢を追いかけるような取り組みですが、ぜひ一緒に夢を追いかけて頂きたいことをお願いさせていただき、そして、本日ご参加賜りましたみなさまに今一度、御礼申し上げます、わたくしからの挨拶とさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございました。